

### 当初予算に対する討論

#### 平成31年度一般会計予算に対する 討論

平成31年度当初予算について、予算特別委員会での審査後、3月27日の本会議で各党派及び無所属議員による討論が行われました。

ここでは、当初予算の主な討論内容についてお知らせします。  
◇討論の詳細は会議録に掲載します。「会議録の公開予定」は10面をご覧ください。

日本共産党西東京市議団 藤岡 智明

反対

#### 行革プラン押しつけ 市民負担増許さない

第4次行財政改革大綱アクションプラン(平成31年度版)は、未徴収施設を含めた全ての施設使用料、スポーツ施設駐車場、田無公民館・中央図書館等駐輪場や胃がん検診、私道整備等の有料化・値上げを検討している。10月には消費税増税が実施され、市民生活は大変になる。プラン実施は撤回すべき。仮庁舎等整備事業費に新たな関連事業費が計上され、庁舎整備基金の積立計画も不明確なままでは、庁舎統合方針の市民合意は得られない。地域住民の合意のない保谷町5丁目市有地売却は見直し、市民要望に沿った活用を行うべきだ。

西東京市議会公明党 藤田 美智子

賛成

#### 子育て・介護・中小 企業・防災を重視!

重要課題に取り組んでいるか、費用対効果、市民生活への影響を精査した。公明党が全国展開した「100万人アンケート調査(子育て・介護・中小企業・防災減災)」での市民意見も加え、1月7日に市長に手渡した「予算要望及び政策提案書」の大部分が反映されたことも評価した。2024年に50歳以上の人口が日本人口の5割を超える。若年人口が急速に減少し、2030年ごろに75歳以上の人口は2割になる。未来を見据えたフレイル予防事業(山口代表も視察)の充実、防犯カメラ設置の検討、学校体育館への空調設置の基礎調査、待機児解消、私道整備費拡充等も評価した。

生活者ネットワーク 後藤 ゆう子

反対

#### ごみの拠点回収廃止 は一旦白紙に戻せ!

資源ごみの拠点回収を廃止し、戸別収集とすることで、市内約6割の世帯で市民サービスが低下する。収集回数が減ることにより、集合住宅の高齢者や体の不自由な方は、さらに排出が困難になる可能性が高い。市民生活にかかわる重大案件を、市民の意見も聞かず強引に押し切るやり方には承服しかねる。まずは、ふれあい収集の要件見直しや集合住宅向けのごみ出し支援策、狭い路地での危険対策、モデル地区での試行実験など丁寧な検証を踏まえるべきだ。市の財政に与える影響や、拠点の廃止がコミュニティの崩壊につながる可能性を指摘し、本予算に反対する。

自由民主党西東京市議団 酒井 ごう一郎

賛成

#### 自民党要望が反映! 市民の生活を守る!

平成31年度予算の編成に当たり、財政調整基金残高の早期回復と経常収支比率の改善に努めることを重点課題とした上で、第2次総合計画・後期基本計画及び分野別計画の着実な推進と健康応援都市の実現に向けて、本市の重要課題に対応した予算となった。フレイル予防事業については、開催回数を増やし事業の拡大を図ったこと、また、ひばりヶ丘駅北口の3・4・21号線の交通開放、交通不便地域での実証実験の開始について評価する。田無駅南口の駅前広場、現道の無電柱化、資源物の戸別収集について確実に取り組むよう要望し、本予算に賛成する。

無所属 田村 ひろゆき

反対

#### 市民への説明抜きに 事業実施は認めない

①仮庁舎整備事業費は、18億8,400万円と説明していたが、21億2,000万円に膨れ上がった。関連経費との答弁は詭弁に過ぎない。市民への説明が先決だ。②資源物の戸別収集化は、地域コミュニティの喪失など、多くの問題点が指摘されている。試行実施からスタートすべき。③保谷町5丁目市有地の売却は、市民の健康づくりに利用されており売却は見送るべき。④中央図書館・田無公民館の耐震補強等改修事業は、期間中の活動場所が失われるだけでなく、改修による延命はまちづくりの足かせともなる。共通する問題は市民への説明不足。本予算には反対する。

立憲フォーラム 森 しんいち

賛成

#### 厳しい財政状況の時 こそ、知恵を絞れ!

「依然として財政構造の硬直化が継続している状況ではありますが、経常収支比率の改善と基金残高の回復を図ることにより、安定的で自律的な行財政運営を目指す」という市長の考えに期待をします。第一に考えるべきことは、適切な執行管理の上で、市民サービスを低下させないということです。そのためには、歳出超過解消に向けて各担当部署がこれまで以上に知恵を絞って取り組む必要があると思います。政策的な議論は継続して行うものとし、平成31年度の厳しい財政状況の中で提案された予算であることを理解し、本予算に賛成します。

統一会派みらい 小峰 和美

反対

#### これでいいのか! 西東京!

西東京市の基本構想・基本計画は、まちづくりを進めるための基本的な方向性を示すものだ。市長は市の最上位計画と位置づけ、議決対象としたことに市民総意に基づき策定されたことは大きな意義があると話している。旧田無時代の第3期基本構想・基本計画のもと、7大重点事業計画の一つとして整備された緑と歴史の散歩道について、議会に何の説明もなく現在の交通状況に合わせた整備を実施するとの報告があった。基本構想・基本計画とはそんな簡単なものか。つくる時だけ議決対象として、改定するときは、何の説明もないのか。これでいいのか西東京。

無所属 納田 さおり

反対

#### ガバナンスの崩壊を 許してはならない!

反対の最も大きな理由はガバナンスの崩壊した予算を簡単に許してしまえば、近い将来、必ず西東京市は財政の崖から転落するからだ。今回の予算編成において財政調整基金の繰り入れ抑制を図った職員の努力は高く評価する。しかし乾いた雑巾を絞り出すようにして捻出した財源をいとも簡単に資源物戸別収集や勤労者福祉サービスセンター補助金といった政治予算にばらまき、さらに中央図書館・田無公民館を耐震化によって古いまま狭いまま縛りつけ、市で最も担税力強化に資する田無駅南口周辺の未来を全く描けない丸山市政のあり方には断固として反対する。

無所属 森 てるお

反対

#### 目先だけしか見て いない予算に反対!

自治体の予算は「住民福祉の向上」を目的とし、市長の目指す方向性が、事業の有機的つながりを持って示される必要がある。そうでなければ市民が市長を選ぶ意味がない。  
本市の予算は市長の顔が見えない。縦割り行政の中で選択された事業が、行財政改革の「コストカット基準」でぶつ切りにされ、有機的なつながりのかけらも見えない「細切れ予算」、「行革コストカット予算」になってしまった。一方で行革にさえならないしがらみ事業も散見される。この予算は一つ一つの事業と施策総体が市民の納得と賛同を得ていない予算だ。とても賛成できない。